

「四季・植物」 21 落の臺

学名 *Petasites japonicus* Maxim.
キク科の多年草
名前の由来については様々な説があり、はっきりしない。

郷土資料から見た「^{ふき}落の^{とう}臺」のあれこれ

冬が終わり雪の消え始めるころ、落の臺が芽吹く。「雪と寒さを耐え抜いて、精いっぱい春の陽光を浴びようと伸び始めているフキノトウは、何ととっても早春の春待草である」（「柏崎の植物」）とあるが、その独特のほろ苦さもまた早春を告げる。

落の臺はフキの葉に先立って出る若い花茎をいい、雌雄異株。黄色の花が雄、白が雌だが、雄の方が肉厚でおいしいといわれる。油で揚げたり、ゆでておひたしにもするが、すり鉢ですって味噌を加えたフキノトウ味噌が一般的である。

古くから初春の貴重な食物とされ、柏崎では昔、3月15日を過ぎる頃になると笠島・谷根・川内地域の女性が、紺紵の着物にもんぺ姿で「落の臺いらんかて」「落の臺お買いアヤァー」と声を掛けながら町で落の臺を売り歩いた。

参考資料

「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「たべもの語源辞典」	清水桂一篇	1980
「草木花歳時記 春」	朝日新聞社発行	1999	「図説 花と樹の大辞典」	植物文化研究会・雅麗篇	1996
「俳句の花」	青山志解樹編著	1997	「柏崎の植物」	柏崎の植物編集委員会編	1981